

下水道の役割

- ◎汚水処理による公衆衛生の向上
- ◎川や海など公共用水域の水質保全
- ◎雨水排除による浸水防除
- ◎エネルギー資源を創る

鎌倉市下水道事業の課題

施設の
老朽化

地震・津波
対策

浸水対策

使用料の
適正化

未利用資源の利
活用（中水・汚
泥の活用等）

4 議 題

(2) 下水道事業の現状と課題について

(3) 社会資本総合整備計画及び事後評価

ア 社会資本総合整備計画及び事後評価について

イ 事後評価の対象となる計画について

ウ 要素事業について

- 要素事業（12事業）ごとの説明
- まとめ（計画達成状況）

エ 事後評価（案）について（審議）

第1回 鎌倉市下水道事業運営審議会

下水道事業の現状と課題

令和4年7月28日（木）

神奈川県鎌倉市

2. 鎌倉市公共下水道事業のあゆみ

- ・ 昭和33年 3月 【鎌倉処理区】
都市計画決定・事業認可取得
- ・ 昭和34年 1月 【鎌倉処理区】
管渠整備着手
- ・ 昭和47年 3月 【鎌倉処理区】
七里ガ浜下水道終末処理場の供用開始
- ・ 昭和61年 1月 【大船処理区】
都市計画決定
- ・ 昭和61年11月 【大船処理区】
事業認可取得
- ・ 平成 5年 6月 【大船処理区】
山崎下水道終末処理場の供用開始
- ・ 平成20年 6月 【鎌倉・大船処理区】
変更事業認可取得(市街化調整区域拡大)

【鎌倉処理区と大船処理区】 (処理方式:分流式)



3. 鎌倉市公共下水道事業の概要

鎌倉市公共下水道計画図 (汚水)



上部利用施設
(鎌倉武道館)



【事業概要】	令和3年度末
全体計画区域	2,783.4ha
鎌倉処理区	1,189.0ha
大船処理区	1,594.4ha
事業計画区域	2,660.6ha
鎌倉処理区	1,187.4ha
大船処理区	1,473.2ha
行政人口	177,022人
処理区域内人口	173,061人
人口普及率	97.8%
整備率	97.8%
※人口は住民基本台帳を基に算出	

鎌倉市公共下水道計画図 (雨水)



【事業概要】令和3年度末	
全体計画区域	2,930.0ha
鎌倉排水区域	1,231.0ha
大船排水区域	1,699.0ha
事業計画区域	2,604.9ha
鎌倉排水区域	1,177.7ha
大船排水区域	1,427.2ha
行政人口	177,022人
整備率	79.3%
計画降雨量(年超過確率1/10)	57.1mm/hr
※人口は住民基本台帳を基に算出	

4. 鎌倉市公共下水道事業の現状と課題

1) 施設の老朽化

鎌倉処理区

- ・汚水ポンプ場
- ・圧送管(幹線管渠)

供用開始から
39年～50年経過

老朽化が進行



現状：下水道事業着手から64年が経過

七里ガ浜下水道終末処理場は供用開始から50年が経過

課題：下水道施設の老朽化対策に伴う改築・修繕経費の増大

2) 地震・津波

現状



6箇所の
中継ポンプ場のうち

津波浸水想定区域内に

5箇所

が立地

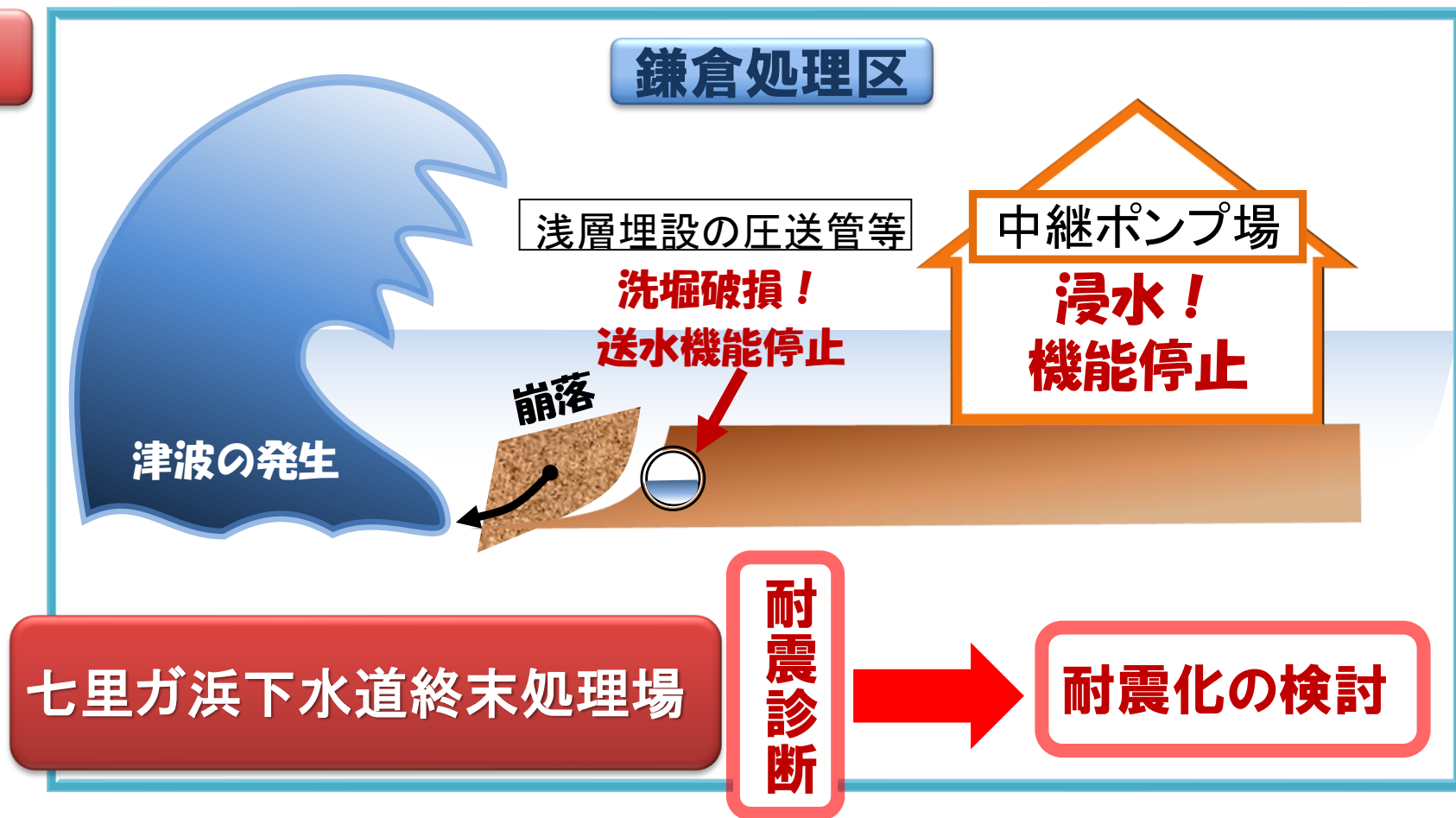
建築基準法

七里ガ浜下水道終末処理場：昭和56年の新耐震基準適用前に建設

※山崎下水道終末処理場は、昭和56年の新耐震基準適用後に建設

2) 地震・津波

課題

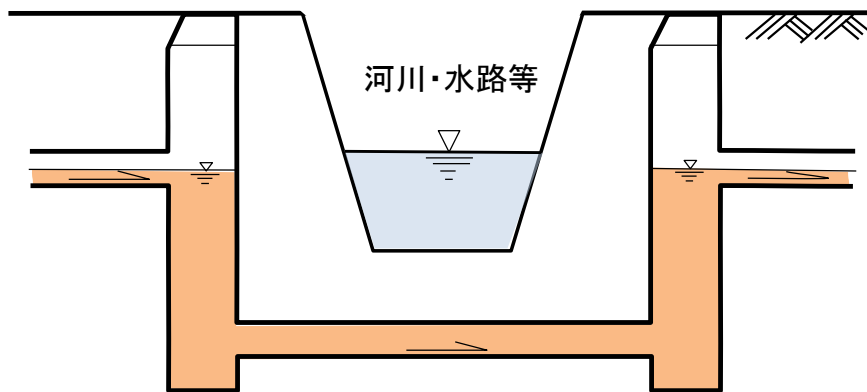


※ 山崎下水道終末処理場は、今後(R4度～)耐震診断及び耐震化事業

ふせこし

3) 大きな管理負担（伏越管など）

伏越管の構造



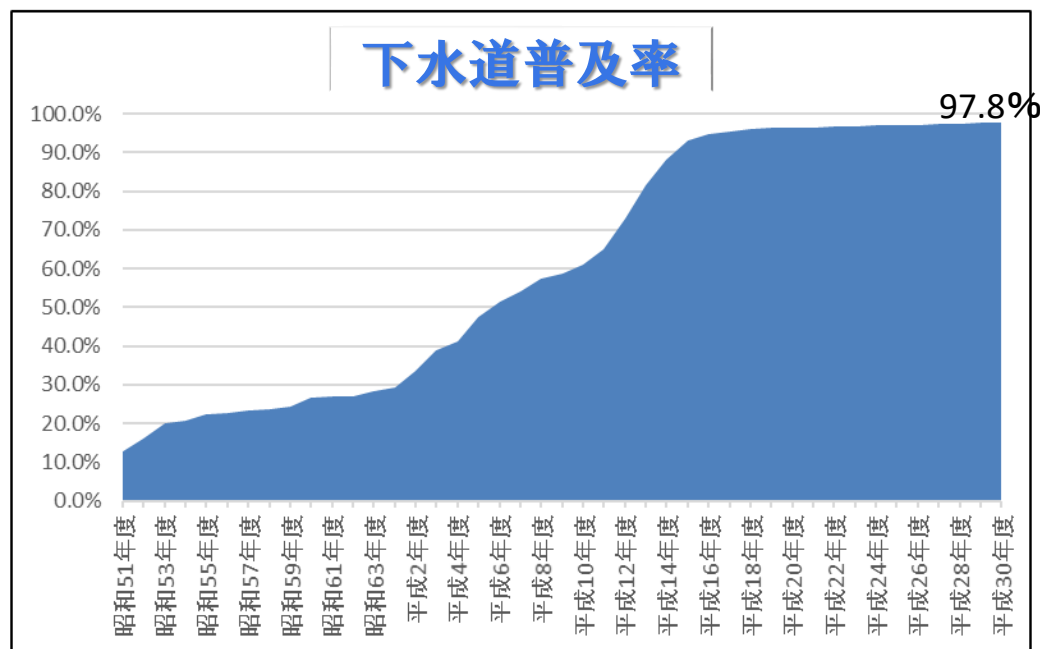
鎌倉処理区

当時は管きょを深く埋設する技術がなかった



現状：先行して事業着手した鎌倉処理区内に伏越管が**60箇所**存在
課題：伏越管は定期的な浚渫作業等、維持管理が大きな**管理負担**となっている。

4) 未整備地区の解消、未接続の解消

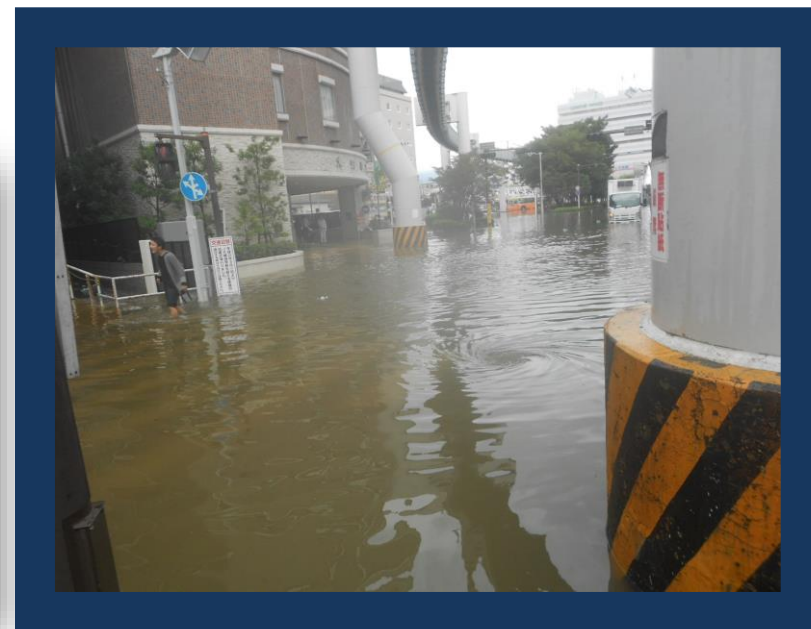
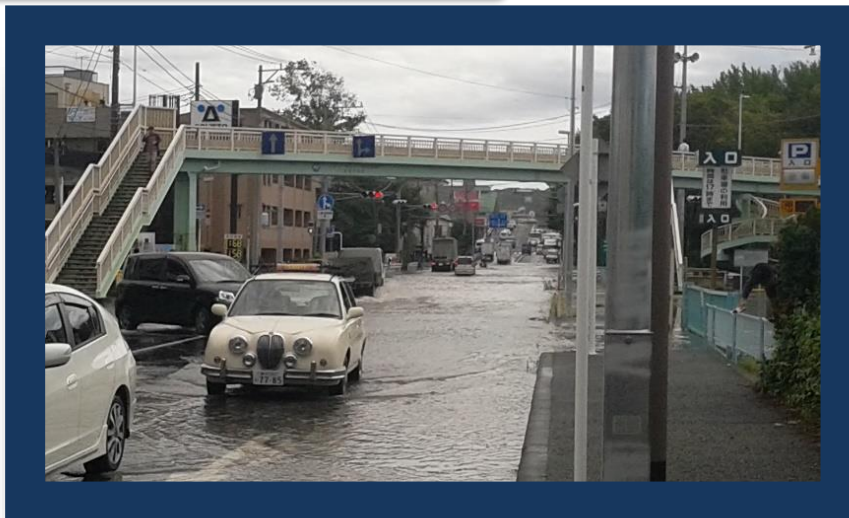


現状：未整備地区、未接続は徐々に解消

(人口普及率97.8%、污水管渠整備率97.8%)

- 課題：**
- ・事業計画区域に位置付けている市街化調整区域の整備促進
 - ・経済的理由などから公共下水道に接続しない家屋等への対応

5) 雨水施設の整備

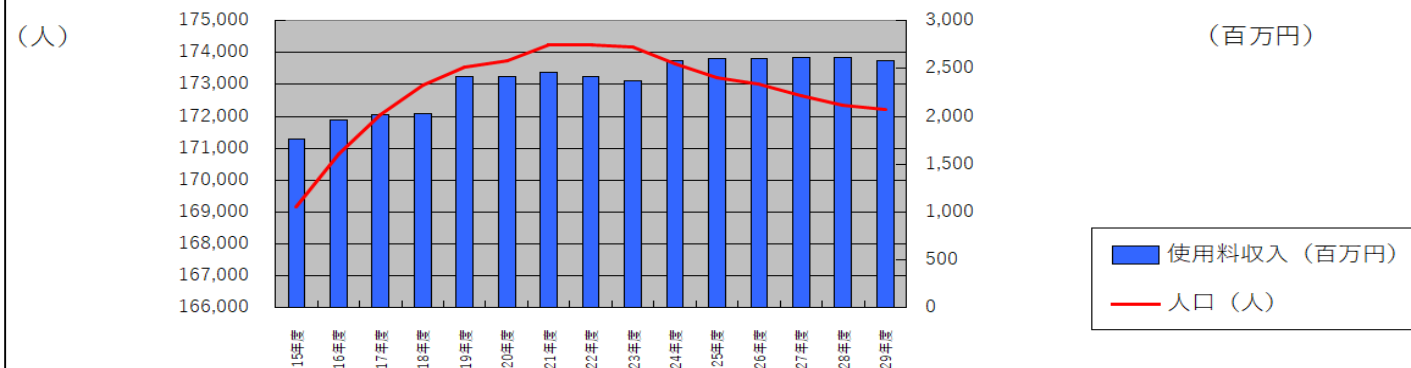


現状：雨水排水施設整備のための用地確保や財源確保が課題となり、施設整備が進捗していない(雨水管きよ整備率79.3%)

- 課題**：
- ・局所的な集中豪雨の発生など気候変動の影響により、浸水リスクが高まっており、浸水シミュレーション等を活用した計画の再検討が必要
 - ・浸水被害の防止に向けた雨水排水施設や貯留施設等の整備促進など雨水管理総合計画の策定が求められている

6) 経営

下水道使用料収入及び人口推移



現状:・平成31年4月から官庁会計から公営企業会計へ移行。
 ・施設の老朽化に伴い維持管理等の経費が増加する一方で、少子高齢化や人口減少、節水型機器等の普及による影響から、下水道使用料が減少傾向にある。

課題: 将来的にも、使用料収入の減少傾向が予想されることから、下水道事業の持続に資する施設改築等の遅れが懸念される。

7) その他の課題

* 人口減少

- ・既存処理施設の余剰能力分の整理

* 不明水の浸入

- ・宅地内の雨どい等の誤接続
- ・老朽化による隙間、ひび割れ及び木の根

* 人員体制

- ・職員数の減少による執行体制の脆弱化
- ・職員の技術力不足

5. 課題の解決にあたって

鎌倉市公共下水道経営戦略(令和3年3月)

経営の基本方針

予防保全の転換

下水道施設の脆弱性の解消(地震・津波・浸水)

経営健全化

課題解決の方策の一つ

社会資本総合整備計画の策定(交付金の活用)